

地域プロジェクト成果報告書

函館港と地域振興

1. 概要・目的・背景

1.1 概要

本プロジェクトは、北海道有数の港湾を持つ函館に住む私たちが、外国人観光客のニーズについて、学生ならではの目線から考え、函館港の国際化に貢献できることはないか調査するプロジェクトである。函館港に寄港したクルーズ乗船客にアンケート調査を実施し、津軽海峡フェリーや函館市港湾空港部の担当者のお話を伺ったほか、クルーズ・セミナーにも参加し、函館港の現状について考察した。

1.2 目的

本プロジェクトの目的は、近年ますます訪日外国人観光客が増え、観光産業の発展を目指している日本の中でも、寒冷な土地と気候と新鮮な海産物を武器に国際都市を目指す函館に住む私たちが、学生ならではの目線から函館に貢献できることはないかを模索し、今後の函館の観光産業活性化へのヒントを考えることを目的としている。

1.3 背景

函館港にはクルーズ客船が接岸できる埠頭が2つあり、各国からのクルーズ船寄港も年々増えている。しかし、2埠頭とも中心部から離れているため、函館市民のクルーズ船おもてなしは熱心な一部の市民に限られ、多くの市民の意識はまだ低いようだ。

2. 実施日程

2017年10月	勉強会
2017年11月	函館市港湾空港部のレクチャー受講
2017年12月	津軽海峡フェリーのレクチャー受講
2018年1月	中間発表会
2018年3月	クルーズ・セミナー参加
2018年4月	函館港にクルーズ船今年初入港、歓迎行事参加
2018年5月	函館港に入港したクルーズ船見学

2018年6月	函館港に入港したラグジュアリー／プレミアム／カジュアル 3クラス3隻のクルーズ船外国人観光客のニーズなどを聞き取り調査
	函館市観光部のレクチャー受講
2018年7月	最終発表会

3. プロセスと成果

まず、前期では2017年10月から12月まで勉強会を踏まえた函館港の現状について、函館市港湾空港部の担当の方から説明を受け、津軽海峡フェリーを訪問して担当の方からレクチャーをしていただいていた。前期の段階ではクルーズ船が函館に来ていなかったため函館港の歴史や現状などを人づてに調査することしかできなかったのだが、貴重な情報が得られた。また、クルーズ船には、高級な方からラグジュアリー、プレミアム、カジュアルの3クラスがあり、値段やおもてなし、船の大きさなども変わってくるのが分かった。

後期からは、クルーズ船の今年初入港もあったため、クルーズ客船に焦点を絞って調査を進めた。まず、2018年3月に参加したクルーズ・セミナーでは、クルーズ船に対する一般のイメージと実際が違うということを知り、それぞれのクルーズ船で乗客へのおもてなしも様々なものが行われていることが分かった。また、2018年4月には港町ふ頭にクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が初入港し、その歓迎行事にも参加した。5月には函館港に入港した日本のクルーズ船「ぱしふいっくびいなす」の船内見学をし、船内の豪華な様子などを肌で感じる事ができた。(写真1)



(写真1.船内見学の様子)



(写真2.乗船客インタビューの様子)

また、2018年6月には函館港に入港した、「シルバー・シャドー」、「セレブレティ・ミレニアム」、「コスタ・セレーナ」のそれぞれのクルーズ船外国人観光客から函館に関する

アンケート調査を行い、3隻を合計して男性28人、女性19人から聞き取った（写真2）。その結果、外国人観光客ならではの函館の問題点などを聞き出すことができた。

今回の聞き取り調査などから私たちが函館の取り組みについて知る必要があると感じたものは3点、「Wi-Fiの普及について」と「免税店の設置について」と「クレジットカード支払いの普及について」である。いずれも外国人観光客から疑問や不満点として指摘されていた部分であった。函館市観光部などで説明を受けたところ、「Wi-Fiの普及について」は五稜郭公園やペイエリアなど観光地はほぼカバーしているということが分かった。SNS認証やメールで確認する手間がかかってしまうが、これは個人情報漏洩などのリスクを避けるためである。次に「免税店の設置」については、函館市内でも年々増えてきており、2016年10月で117店舗（『ほくよう調査レポート17年7月』）あるという。最後に「クレジットカード支払いの普及について」使用できる店舗が徐々に広がっているが、飲食店では使えないところもあるのが現状。また今後は「スマートフォン決済」への対応が課題である。

4. 総括と反省・今後の課題

1年間を通しての活動の総括としては、前期は港の歴史やフェリー等についてのレクチャー。後期はクルーズ船に絞った函館港の国際化に向けた動きや問題点などを見つけることができ、前期と後期でテーマを変えることで様々な視点から函館港の国際化について調べることができた。忙しい中アンケートに協力していただいた外国人観光客の皆様に感謝申し上げます。しかし、4月～10月に函館を訪れるクルーズ船の最盛期はこれからであり、7月21日の最終発表という、時期的にはやや早くまとめざるを得なかったのは残念だった。

また、数年後に若松埠頭が完成すると、JR函館駅裏という市中心部近くに大きなクルーズ船が接岸できるようになり、観光客の流動が大きく変わる。今のところクルーズ船の歓迎、おもてなし、見送りは一部の市民と学生が主体である。若松埠頭完成は、より広い市民によるおもてなしに変える画期となるはずであり、市民もまた貴重な“資源”である港をより身近に感じることができるようになる。そうすれば、港町としての函館の価値も一層高まるのではないだろうか。

5. 地域からの評価

6. メンバー一覧

6010 勝木陽太 6024 鎌田茉侑 6031 千葉有羽太
6035 柿崎穰 6037 沼沢里香 6042 村上凌雅
6056 齋藤秋香 6077 千葉佑介 6100 鈴木誠人
担当教員:今井宏